

福島から世界を変える

FUKUSHIMA TECH PLANTER

2019. 春号
vol.01

[福島テックプランター]



— 巻頭対談 —

福島から世界へ、 地域再興のエコシステムを創る

特集1 第1回 福島テックプランングランプリ

特集2 キャリアディスカバリープログラム



CONTENTS

- 03 福島県から世界を変える
- 04 巻頭対談「福島から世界へ、地域再興のエコシステムを創る」
- 06 福島イノベーション・コースト構想～福島ロボットテストフィールド～
- 07 ロボットテストフィールドが加速する技術の社会実装と地域再興（株式会社自律制御システム研究所）

特集1 第1回福島テックプランングランプリ

- 08 第1回福島テックプランングランプリ 概要
- 10 最優秀賞チームインタビュー
- 11 最終選考会ファイナリスト
- 12 福島から世界を変える FUKUSHIMA TECH PLANTER 2019 始動！

特集2 キャリアディスカバリープログラム

- 14 一歩踏み出す君になる「キャリアディスカバリープログラム」
- 16 いざ、挑戦の場へ シリコンバレー視察研修
- 17 「失敗は悪いことじゃない」（福島大学 藤田修吾さん）
- 18 アカデミア・コンソーシアムふくしま 紹介
- 19 株式会社リバネス 紹介

発刊に寄せて

生まれ育った福島県。かつての商業施設は駐車場、シャッターが目立つ商店街へ、また1学年あたり500名を超えていた母校も現在は300名を下回る状況など、その衰退を感じずにはられません。しかし、この度、福島県「リーディング起業家創出事業」の委託を受け、県内の大学等研究機関が参画する「アカデミア・コンソーシアムふくしま」と連携し、県内大学等高等教育機関の研究者と研究成果の事業化の推進および大学生等次世代を対象に未来の起業家育成に取り組む、あらためて福島県の良さ、将来の可能性を強く感じました。福島未来を感じ、想いを共にする仲間が増えることを願い発刊いたします。（編集長 岡崎 敬）

掲載者の所属・学年等は、2019年3月時点での情報に基づいて作成しております。

FUKUSHIMA TECH PLANTER vol.01

2019年3月31日発行

編集長	岡崎 敬
記者	石尾 淳一郎、石澤 敏洋、井上 麻衣、 武田 隆太、伊達山 泉、百目木 幸枝
表紙・DTP	清原 一隆 (KIYO DESIGN)
発行人	丸幸弘
発行元	株式会社リバネス 〒162-0822 東京都新宿区下宮比町1-4 飯田橋御幸ビル 5階
TEL	03-5227-4198
FAX	03-5227-4199
URL	https://lne.st
MAIL	LD@lne.jp

福島県から 世界を変える

福島県は東北6県中、宮城県に次ぐ第2の経済規模（実質県内総生産約7.5兆円）を誇る一方、平成22年～27年までの人口減少率は5.7%と秋田県に次ぐ水準にある（総務省、平成27年国勢調査）。いま、福島県を振興していくために、世界に通用する優れた研究成果を起点に新産業を創出していくことが求められている。

県内には、8つの大学をはじめとする19の高等教育機関がある（アカデミア・コンソーシアムふくしま正会員機関）。しかし、各機関での研究成果が、事業化・産業創出に結びついている例が多いわけではない。そ

こで、福島県はこれらの機関と、社会実装のパートナーである産業界を結びつけ、テクノロジーベンチャーの発掘・育成を行っていくためのエコシステムの構築を目指し「リーディング起業家創出事業」をスタートさせた。

高等教育機関が集積する福島市、郡山市、会津若松市、いわき市がその要だ。それぞれ、行政機能の要所・果樹地帯、商業・内陸工業地帯、電子精密機械産業拠点、沿岸工業地帯などといった特色をもつ。これらの地から、福島の知が生み出されてきた。世界の課題を解決するテクノロジーベンチャー・新産業のロールモデルを創出する。

基本情報

人口	1,857,366人(全国21位) ¹
面積	13,783.90 km ² (全国3位) ²
近隣の空港 (主な直行便発着先)	福島空港(台北、ホーチミン、新千歳、伊丹ほか)、仙台空港(上海、ソウル、バンコク、成田ほか)
実質県内総生産	74,556億円(全国20位) ³
大学等進学率	45.7%(全国34位) ⁴

出典：1 福島県現住人口調査(平成31年2月1日現在)、2 国土交通省全国都道府県市区町村別面積調(平成25年)、3 福島県県民経済計算年報(平成28年度)、4 文部科学省学校基本調査(平成29年)

都市間の交通状況

	時間
東京駅～福島駅	約1.5時間(東北新幹線)
東京駅～郡山駅	約1.4時間(東北新幹線)
郡山駅～会津駅	約1時間(車/鉄道)
郡山駅～いわき駅	約1.5時間(車/鉄道)

東北6県の大学数と大学発ベンチャー数(2017年現在)

	大学数	大学発ベンチャー企業数
福島県	8	30(会津大学：29)
青森県	10	5(弘前大学：5)
岩手県	6	24(岩手大学：19)
宮城県	14	56(東北大学：56)
秋田県	7	9(秋田大学：5)
山形県	6	15(山形大学：10)

出典：経済産業省「平成29年度産業技術調査事業(大学発ベンチャー・研究シーズ実態等調査)」。括弧内は各県最多の大学発ベンチャー企業を有する大学

福島県に拠点を持つ主な企業例(主たる業別 五十音順)

製造業
NOK株式会社
笠原工業株式会社
株式会社IHI
株式会社アサカ理研
株式会社クレハ
株式会社光陽社
大日本印刷株式会社
株式会社中野製作所
株式会社福島製作所
北芝電機株式会社
日東紡績株式会社
古河電池株式会社
三菱ケミカル株式会社
建設業
クレハ錦建設株式会社
佐藤工業株式会社
常磐開発株式会社常磐興産株式会社
東開クレテック株式会社
福浜大一建設株式会社
情報通信業
株式会社エフコム
小売業
株式会社幸楽苑ホールディングス
ゼビオホールディングス株式会社
株式会社ハニーズホールディングス
金融業
株式会社大東銀行
株式会社東邦銀行
株式会社福島銀行

福島から世界へ、 地域再興のエコシステムを創る



地域一帯で進める再興について熱く語る橋本さん(右)と丸(左)

福島県商工労働部 部長 **橋本 明良** さん

株式会社リバネス 代表取締役グループCEO **丸 幸弘**

地方から都市への人口流出が加速している中、生活基盤を支える働き手を取り戻そうと各地で地域活性化に力を入れて様々な取り組みがなされている。企業誘致にとどまらず、実証研究所としての地域の開放や、新事業創出もそのひとつだ。福島県商工労働部の橋本部長と株式会社リバネスの丸CEOが真の地域再興のエコシステムについて語った。

地域再興の機会と可能性

「福島県は中庸で漫然と暮らせる、ある種恵まれた地域でした。人口減少や地方の衰退も大きく気に留めず、暮らし続けていけたかもしれません。しかし、2011年の東日本大震災で大きく変わった日常を契機に、私達は新たな取組を目指すことになりました」。福島県の地域再興への意気込みは他地域のそれとは一線を画す。その1つが2014年に始まった国家プロ

ジェクト、福島イノベーション・コースト構想(p.6)だ。世界に類を見ない研究開発拠点を軸とした新たな産業基盤の構築を目指している。「2017年1月12日には、世界初の完全自律飛行のドローンによる長距離荷物配送の実証試験の事例が生まれました。夢や想いを実現できるフィールドが整いつつありますが、どのように活用していくのがこれからの課題です」。橋本さんは福島県の可能性を広げていきたいと考えている。

大学が地域発事業の核になる

「地域に先端のテクノロジーを誘致するだけでは無い。この地から最先端技術を生み出す起業家を育成することも重要だ」とリバネスの丸は主張する。2018年から県が開始したリーディング起業家創出事業では、大学発ベンチャー創出モデル事業に焦点が当てられた。「肝心なのは、地域から世界につながる産業を創ることができるという事実を生み出していくこと。地方の大学は、事業を興すための重要拠点なのです」。こうして、大学や高専等で生み出された知を発掘し、事業へと育てるプログラム、福島テックプランターが走り出した。その、起業家の発表の場として2019年2月に開催された第1回福島テックプランングランプリ(p.8-11)には、福島大学、福島県立医科大学、日本大学工学部、奥羽大学および福島工業高等専門学校の研究者がファイナリストとして出場した。審査員として参画したパートナー企業、地元有力企業の共感を得て、今まさに4人の研究者がベンチャーを立ち上げようと動き出している。

持続性をつくる次世代の巻き込み

「中高生に夢を持ってほしい」。リバネスが主催する中高生のための学会、サイエンスキャッスル*東北大会を2018年12月に福島で実施した。県では起業家創出に加えて、未来の起業家育成事業にも取り組む(p.14-17)。「これからの福島を担っていく若者を育てていかなければならない」と橋本さん。アントレプレナーシップを持った次世代を育成していく考えだ。今ある研究成果を活かし、地元の資源や魅力に目を向けるように次世代を活性化させることも不可欠だという考えが大きい。リバネスは県内の学生を対象に、キャリア観を育むセミナーを開催し、2019年2月にはシ

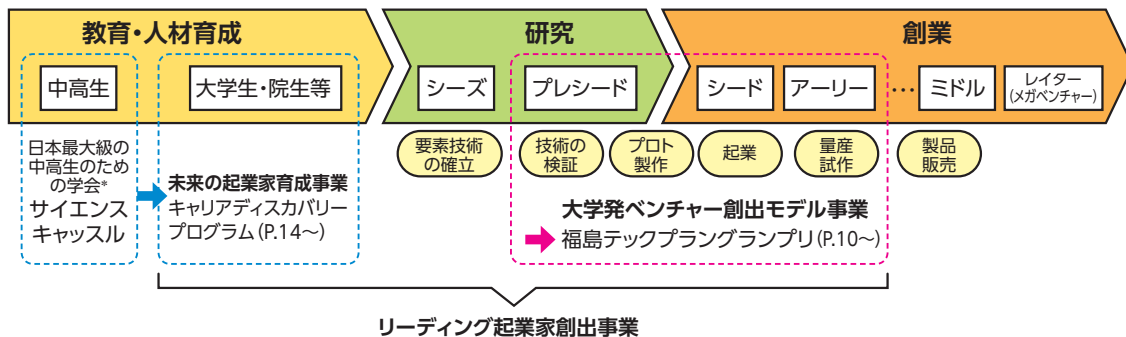


リコンパレー視察研修を実施した。これらの企画に参加した次世代たちも、第1回福島テックプランングランプリを見学した。「地元にいる大人の研究者が熱っぽくがむしゃらに挑戦する姿こそ、次世代に伝えなければならない」と丸は語る。福島から世界が見える、それが次の挑戦者を増やすのだ。

教育から産業までをひとつながりにする

世界に注目される拠点にしたいという県の想いに対して、「僕たちが構築してきたインバウンドグローバルイノベーションというモデルが適用できると感じています」と丸は見据える。海外のベンチャーを誘致し、福島ロボットテストフィールドでの実証支援や中小企業によるものづくりを支援することで、福島と海外のマーケットが直接つながる構想だ。「“福島から世界へ”というのは夢物語ではない。教育と新産業創出がリンクすることで地域再興エコシステムの根幹になる」と橋本さんも丸も強調する。大学発ベンチャー創出事業と未来の起業家育成事業が両輪となり、この福島が、未来を創造する地域として再生するに違いない。

地域再興エコシステム全体像

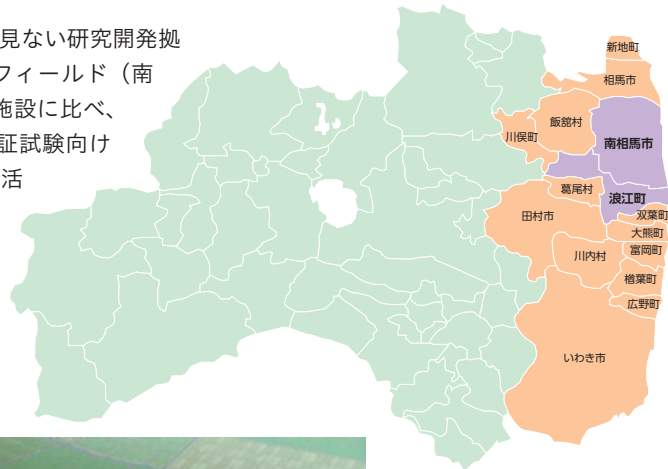


*2012年度から開始、本大会に6794名が参加、合計で1299件の熱い研究発表を全国各地で繰り広げている。

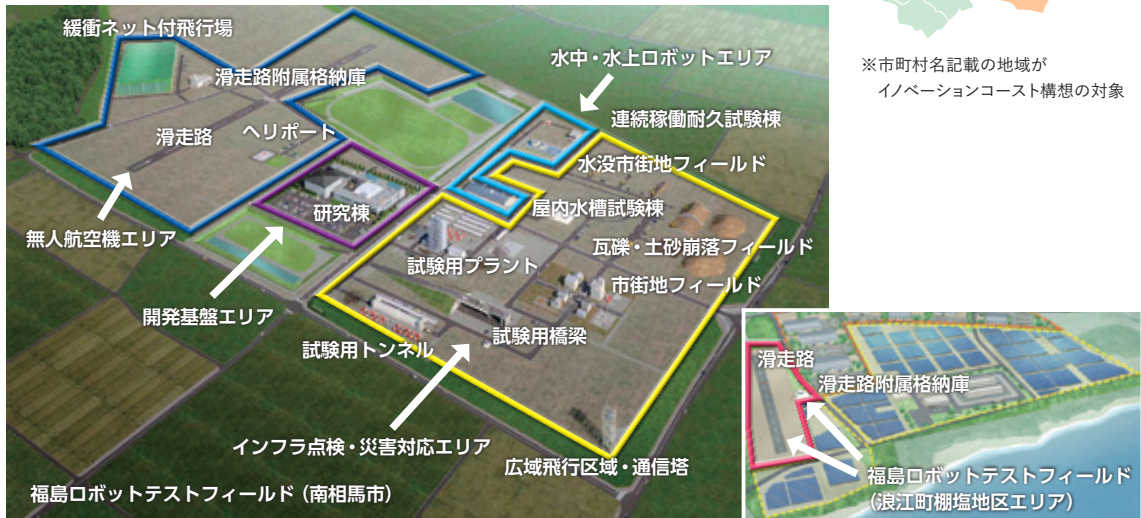
福島イノベーション・コースト構想 ～福島ロボットテストフィールド～

大震災及び原子力災害により失われた浜通り地域等に、最先端の技術・研究を集積し、新たな挑戦と新たな産業を生むことで、福島の未来を創造するための国家プロジェクトが「福島イノベーション・コースト構想」だ。沿岸部を中心とした15市町村に廃炉、ロボット、エネルギー、農林水産等の分野における各種拠点を整備、企業立地補助金や研究開発・実証試験に関する各種補助金制度など支援を行う。今後は産業集積や人材育成、交流人口拡大にも取り組む予定だ。

その中で特に注目したいのが、世界に類を見ない研究開発拠点として整備される「福島ロボットテストフィールド（南相馬市・浪江町）」だ。海外の同規模の試験施設に比べ、良好な立地（仙台より車で75分ほど）で実証試験向けの広大な非住居エリア（合計で約50ha）、生活インフラがそろう中心市街地も近接している。テクノロジーで福島から世界の未来をつくる、その一歩を踏み出せる場は用意されつつある。皆さんの活躍を待っている。



※市町村名記載の地域がイノベーションコースト構想の対象



無人航空機エリア	国内最大となる飛行空域、滑走路、緩衝ネット付飛行場において、基本的な飛行から衝突回避、不時着、落下、長距離飛行など多様な試験ができる環境を提供する。
水中・水上ロボットエリア	ロボットによる水中のインフラ点検と災害対応の実証試験のために整備される国内唯一の試験場。ダム、河川、水没市街地、港湾等の水中で発生する状況が再現可能。
インフラ点検・災害対応エリア	ロボットによるインフラ点検と災害対応の実証試験のために整備される国内唯一の試験場。トンネル、橋梁、プラント、市街地、道路等の構造物の中で、想定されるほぼ全ての災害環境、老朽化状況が再現可能。
開発基盤エリア	福島ロボットテストフィールドの本館としての機能を持つ研究棟では、各試験の準備、加工・計測に加えて、ロボットの性能評価のための風、雨、防水、防塵、霧、水圧、温湿度、振動、電波に対する試験が可能。

問合せ先 公益財団法人 福島イノベーション・コースト構想推進機構
(TEL: 0244-25-2473 EMAIL: robot1@fipo.or.jp)

ロボットテストフィールドが 加速する技術の社会実装と地域再興



株式会社自律制御システム研究所 (ACSL) は、2018年12月、東証マザーズに上場したドローンベンチャーだ。世界初に挑むための実証環境を求めて福島に拠点を構え、産業用ドローンの研究開発、製造に取り組む。鷲谷 聡之さんに福島県における研究開発の可能性についてお話を伺った。

株式会社自律制御システム研究所
取締役最高執行責任者 COO
鷲谷 聡之さん

福島ロボットテストフィールドの魅力

2018年11月、日本郵便はACSLのドローンを用いた国内初の郵便局間輸送を開始した。小高郵便局（南相馬市）と浪江郵便局（浪江町）の9km間で1日2便、週3回飛行する。これまで25分を要した配達を15分に短縮したという。この実現には、実際の飛行ルートに近い環境で長距離自律制御飛行や安全性能の実証を繰り返してきたことが大きい。その実証試験を行った約13kmのコースがある浜通地区には、「福島イノベーション・コースト構想」に基づく福島ロボットテストフィールドも存在する。陸海空のフィールドロボットを主な対象に、研究開発や実証試験、性能評価、操縦訓練等が可能な世界に類を見ない研究開発拠点だ。橋やトンネルなどの再現された環境は用途開発に適しており、国の成長戦略に位置づけられた当地での実証試験に地元の理解も高い。

社会実装につながる実証からの学び

実証試験の結果から、発着地点の気圧や天候の違いが飛行に大きく影響を与えることが明らかになった。「実際の風はシミュレーションでは再現できない。実際にやってみないとわからないことが数多くある」と鷲谷さんは語る。また、落下の懸念を払拭できないドローンにおいては、実際に落下させることで、その有りが明らかになる。重さ6-8kgのドローンを150mの高さから墜落させる試験では50機を超える量を犠牲にして行い、横風などの影響から半径200m以上の安全対策が必要であることを明らかにした。これをもとに、0.5秒で展開するパラシュートを装備に組み入れ、被害を最小化する対策を決めた。鷲谷さんは「社



福島県南相馬市において、世界初・完全自律制御飛行のドローンによる長距離荷物配送の実証試験を実施した（経済産業省、NEDO、福島県、南相馬市、ACSL）

会実装につながる学びは実証でなければ得られない」とその重要性を強調する。

テストフィールドから福島を リブランディングする

全国に先駆けてドローンによる配送が実用化できたのは、地域の協力、住民理解があればこそであり、地域からの期待もうかがえる。また、世界の先端に行く取り組みは、この地域に若者を惹きつける要素だ。新産業の立ち上げにより注目が集まると、宿泊施設やレストランなど周辺事業へも波及し、地域再興の実現につながっていくだろう。「この福島の地でドローン産業の強固な基盤を築きたい」と鷲谷さんは意気込みを語る。世界に類を見ないこのテストフィールドの地は、ドローン前提社会の到来に先駆けた新産業の最先端拠点として、世界にFukushimaの名を改めて知らしめるに違いない。

第1回福島テックプランングランプリ 概要



福島から世界を変えるリアルテック集結！！

福島県内の大学・工業高等専門学校を広く巻き込み、産業に未活用の研究成果の事業化を推進し、実際にベンチャーとして社会実装のロールモデルを生み出すことを目的として「福島テックプランングランプリ」を開催しました。第1回の今回は、福島県内の大学・工業高等専門学校から計15チームがエントリーし、9チームのファイナリストが決定、2019年2月9日（土）に、福島県から世界を変えるアイデアと情熱を併せ持ったチームが、熱いプレゼンテーションを展開。審査の結果、8つの企業賞と最優秀賞が決定いたしました。

概要

場所	〒960-8053 福島県福島市三河南町1-20 コラッセふくしま
開催日時	2019年2月9日（土）13:00～19:00（懇親会 19:00～20:30）
体制	主催：福島県、株式会社リバネス、アカデミア・コンソーシアムふくしま
参加対象	事前登録制にて開催 （ファイナリスト、パートナー企業、アカデミアの研究者、学生、中高生）

プログラム

- 13:00 ~ 13:25 開会の挨拶／主旨説明
審査員紹介
- 13:25 ~ 14:15 基調講演
- 14:15 ~ 16:50 最終選考プレゼン
- 16:50 ~ 17:50 休憩／会場投票
ポスターセッション／審査時間
- 17:50 ~ 19:00 表彰式／講評
閉会の挨拶／記念撮影
- 19:00 ~ 20:30 懇親会



プレゼンテーション



質疑応答



ポスターセッション



懇親会

基調講演



講演者 株式会社自立制御システム研究所 取締役COO 鷲谷 聡之

タイトル 空を変える — 産業用ドローン —

講演者 株式会社TBM 代表取締役CEO 山崎 敦義

タイトル 東北発、石灰石からつくる革新的新素材LIMEX



地域開発パートナー



NOK株式会社



株式会社クレハ



大日本印刷株式会社



日本ユニシス株式会社



リアルテックファンド



株式会社ABRI



株式会社自律制御システム研究所



株式会社TBM

協力



株式会社東邦銀行



株式会社福島銀行



株式会社大東銀行



古河電池株式会社



福島大学



福島県立医科大学



奥羽大学



日本大学工学部



福島工業高等専門学校

植物体を利用した熟成遅延機能を持った 青果用パッケージの製品化

最優秀賞

クレハ賞

DNP賞

とまとくらぶ

独立行政法人国立高等専門学校機構
福島工業高等専門学校
化学・バイオ工学科 教授

内田 修司さん



内田さんはトマト茎にエチレン吸収能を発見し、原因物質の単離と、熟成遅延機能を持ったパッケージの開発を目指している。「県内で大量に発生するトマトの茎。もう廃棄物だなんて言わせない」。力強いプレゼンテーションに会場の注目が集まった。

身近にあった発見

内田さんがこの研究を始めたのは家庭菜園で収穫したトマトがきっかけだった。茎の近くに置かれたものは青いままで、遠くのものほど色づくように見えたという。試しに茎と桃を一緒に置くと、桃が傷みにくくなった。しかし、トマト茎に熟成遅延効果があるという情報は見つからず「もし事実ならトマトやフルーツ生産量の多い県の農産業に貢献できるのでは」と思い至った。熟成は果実から発生するエチレンガスが促す。そこで、エチレン吸着能をもつ活性炭との比較や、茎抽出液の鮮度保持能力を調べた結果、炭のような表面構造での吸着ではなく、物質Xによる吸着が起きている可能性を見出した。「有機化学、植物は専門外なのですが、地元企業や農園にも協力を仰ぎ、基本特許の取得まではできました。しかし異分野の壁は高く、開発は停滞していました」と内田さんは話す。

もやもやしたまま終わりにたくない

研究開発・事業化を共に進める仲間との出会いを期待し、福島テックプランングランプリへ参加を決意。研



収穫後10日目の桃の様子。左は熟成が進み、果実に痛みが見られるが、右の処理区では見られない。左：未処理のフルーツキャップで保護したもの 右：トマト茎抽出液を染み込ませたフルーツキャップで保護したもの

究開発状況とともに、物質Xの特定や、パッケージの加工方法、流通網の整備など、具体的な課題感を審査員に伝えた。地域を想う心と、世界の課題にもつながるテーマが会場を動かし、クレハ賞、DNP賞、そして最優秀賞を受賞した。この結果は学内外の評価を変える力になったという。「正直このテーマで大丈夫かと気後れをしていましたが、詳しい人達の力を借り、研究開発が進むのであれば、それでよいのだと理解できました」と当日を振り返る。起業に向けた準備や、自治体や大手企業との連携が少しずつ加速している。内田さんの夢が県、企業、生産者、みんなの夢になり、地域を変えようとしている。

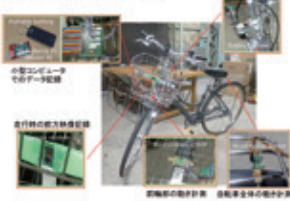
最終選考会ファイナリスト

1 チーム名
Cycle Recorder
(日本大学 工学部)

発表者 高梨 宏之

テーマ サイクルレコーダで
自転車事故ゼロへ!

サイクルレコーダの構成



2 チーム名
みえるプロセスエンジニアリング
(福島工業高等専門学校 化学・バイオ工学科)

発表者 車田 研一

テーマ 粉やスラリーの『ふうあい・品質【暗黙知】』にせまる、汎用工業素材の視覚的プロセス工学の開拓

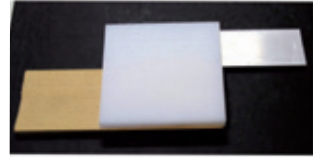


一見、見えないほど速く動いているのに、なぜ私たちはこれらの区別ができるのか?

3 チーム名
KANA界面ラボ
(KANA界面ラボ)

発表者 金澤 等

テーマ 異種・同種材料を
「真に接着可能」とする
技術による材料革新



超高分子量ポリエチレンに木材とアルミを接着

ACSL 賞

TBM 賞

4 チーム名
福島ウッドパワー
(福島大学 共生システム理工学類)

発表者 大橋 弘範

テーマ 木質バイオマスガス化発電を通した森林や農業による循環型経済の確立



日本ユニシス賞

5 チーム名
薬用植物食品
(奥羽大学 薬学部)

発表者 伊藤 徳家

テーマ マルチタレント植物「カンゾウ」の栽培と、新規六次化健康製品の開発



リバナス賞

6 チーム名
とまとくらぶ
(福島工業高等専門学校 化学・バイオ工学科)

発表者 内田 修司

テーマ 植物体を利用した熟成遅延機能を持った青果用パッケージの製品化



最優秀賞

クレハ賞

DNP 賞

7 チーム名
オーラルハビネス
(奥羽大学 薬学部)

発表者 大島 光宏

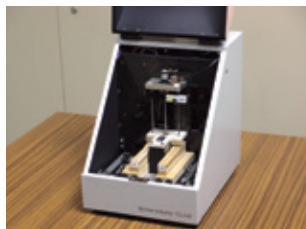
テーマ 歯周炎発見器



8 チーム名
エースバイオアナリシス株式会社
(福島県立医科大学 医学部)

発表者 志村 清仁

テーマ タンパク質の電荷バリエーションを迅速に分離分析する方法の実用化

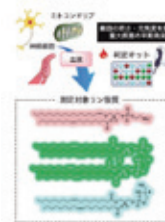


リアルテックファンド賞

9 チーム名
酵素エクスプローラー研究所
(福島大学 共生システム理工学類)

発表者 杉森 大助

テーマ 酵素スクリーニングビジネス



NOK 賞

参加者の声

受賞こそはなりませんでしたでしたが、多くの気付きがありました。特にメンタリング(申請やプレゼンテーション指導の過程)で、研究を始めた頃の想いを振り返り、また異分野・異業種の方にどのように伝えれば仲間を作れるかを理解でき、今後の研究者人生の財産になると感じました

異分野の方とのディスカッションで、新しい視点から指摘やアイデアをもらえたことは刺激的でした。研究方針にも自信が付き、その後色々な研究者や企業とコミュニケーションを進めることにもつながっています。研究が加速していることを実感しています!

参加をきっかけに急速に物事が動き出しました。過去、起業を考えたことはありますが、信頼できる仲間がおらず、一歩が踏みきれませんでした。現在、年内の起業を目指し、リバナスや司法書士の方との打ち合わせを進めています



科学・技術で世界を変えたいという情熱のある
学生、研究者、企業、個人のチャレンジを待っている！

募集分野

社会課題の解決に資する研究開発型の
テクノロジー全般



こういう方に
おすすめ！ 研究成果を社会に活かしたい！
技術を社会に活かす仲間がほしい！

エントリーフォームでの記入項目

TECH PLANTERメンバーに登録ののち、
Webフォームに記入（6月17日 締切）

主な
入力
項目

- チーム情報(1人でも可)
- コア技術(強み)
- 解決したい課題
- 将来のビジョン

エントリーから最終選考会までの流れ

- 1 説明会（5月～6月）
- 2 エントリー相談
- 3 キックオフイベント（6月8日）
- 4 書類提出締切（6月17日）
- 5 選考結果通知（6月29日）
- 6 福島テックプランングランプリ（7月27日）

最優秀賞

賞金 30万円

審査項目

以下の審査項目を元に、書類審査、
及び最終選考会を実施

- 1, 新規性があるか
- 2, 実現可能性があるか
- 3, 世の中を変える可能性があるか
- 4, 事業に対するパッションがあるか

新しい一歩を、今ココから！

申込締切

2019年6月17日

表彰

最優秀賞、企業賞（複数件）

対象

- ① 県内研究機関の科学・技術をベースとしており、創業に興味・関心があるベンチャー、チーム、個人であること
- ② 年齢・国籍・所属不問、学生も参加可
- ③ 世界を変えうる Question と Passion を持っていることが望ましい

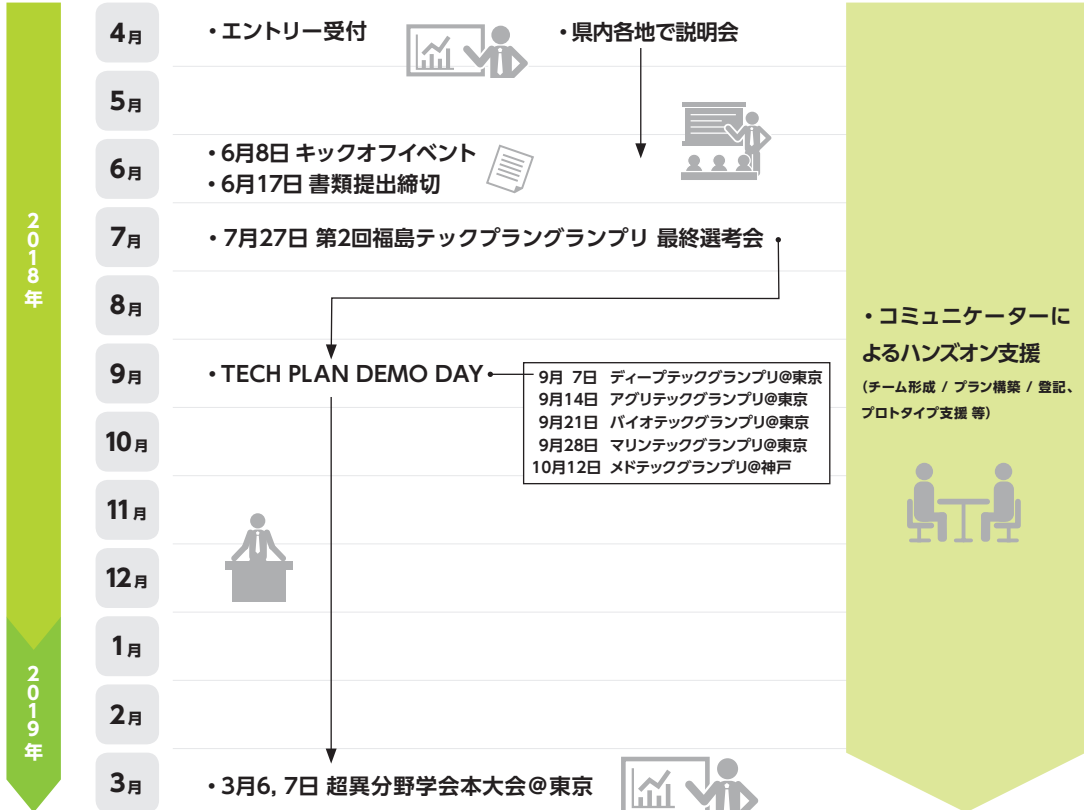
申し込み

下記URLもしくは、右記のQRコードからお申し込みください

<https://techplanter.com/entry/>



福島テックプランター 2019から研究の事業化が加速する



TECH PLAN DEMO DAY

株式会社リバネスの「創業応援プロジェクト」の一環として行われる、アジア最大のテクノロジーベンチャー 発掘・育成プログラム。大学や企業から生まれる先進的なテクノロジーにビジネスプランを付与することで、社会実装に向けた一歩をサポートする。2019年度はモノづくり分野、バイオ・ヘルスケア分野、食・農業分野、海洋・水産環境分野、医療・創薬分野の5分野を募集。



超異分野学会

株式会社リバネスの「研究応援プロジェクト」の一環として行われる学会。2日間に渡り述べ1300名を超える参加者が熱くディスカッション。分野を超えたあらゆる研究テーマを集め、研究者、ベンチャー、企業、町工場、中高生など異なる立場の視点やアイデアを織り交ぜながら、新しい研究プロジェクトの種を生み出す場。



パートナー募集

福島テックプランターでは、福島県から世界を変える事業を生み出すべく、年間を通して活動を展開しております。本取り組みが県内の新たなエコシステムとして定着・発展していくためには、技術のタネをともに育て、それが花開き、実をつけるまで、伴走いただける県内企業の皆様のご参画が不可欠です。パートナーシップについての詳細は下記までお問い合わせください。

問合せ先

株式会社リバネス TEL : 03-5227-4198 (人材開発事業部 岡崎、地域開発事業部 石澤)

一歩踏み出す君になる 「キャリアディスカバリープログラム」

10～20年後、現時点で存在する仕事の約50%が、機械での作業に置き換わると予想されている。そんな未来を君たちはどう生きる？自分らしい仕事、自分らしい生き方ってなんだろう。それはきっと、自分の「好奇心」や「興味」に従って、一歩踏み出し続けること。アントレプレナーシップ（起業家精神）と呼ばれるこの考え方を手に入れることができれば、君はなんだってできる。最初の一步を応援する「キャリアディスカバリープログラム」へようこそ。



福島発、世界行きのチケットを手に入れよう

チケットの行き先はシリコンバレー、世界を変えるビジネスが生まれ続けるイノベーションの聖地。そこでは誰もが”What can I do for you? (君がやりたいことを実現させるために、何か手伝えることはある?)”と問いかけてくる。自分の興味や関心をキャリアにしていることが当たり前の世界。

では、君の「やりたいこと」ってなんだろう？ きっと、すぐに答えられる人は少ないはず。それ知るためには、自分を理解し、また自分でつくったアイデアを相手にぶつけて磨くことが重要だ。そこで今回は、シリコンバレーへ飛び立つ前に、君自身の「やりたいこと」を自分の中から発見することができる「キャリアディスカバリープログラム」を実施した。

キャリアディスカバリープログラムの流れ

各詳細は次ページ以降で説明する。



11月 ステップ1 キャリアディスカバリーセミナー

先輩起業家たちの講演でキャリアの幅を広げる

自分の興味や関心事をキャリア(生き方)にしている先輩起業家から話を伺い、自分の「やりたいこと」について参加者同士でディスカッションを行う。

▼希望者



12月 ステップ2 キャリアディスカバリーワークショップ

自分の興味を発見する

「やりたいこと」をやり続けるために重要なことが「ビジネス化」をすること。ここでは、参加者同士のディスカッションを通じて、アイデアをビジネス化するための考え方を実践的に理解する。

▼エントリーシートの提出&選考会



1月 ステップ3 シリコンバレー視察事前研修

ビジョンを語れ

世界を変えるビジネスが生まれ続けるシリコンバレーとはどのような場所なのか？ 現地について学び、また、自分たちのアイデアを仲間とメンターとともに更にブラッシュアップする。



2月 シリコンバレー視察研修

シリコンバレーの起業家、アクセラレーターや投資家にビジネスプランを提案。自分の思いや考えを発信し、仲間を集めることが、興味をキャリアに変える最初の一步。いざ挑戦!

関心事やキャリア観を広げよう

キャリアディスカバリーセミナー& シリコンバレー視察研修説明会

2018年11月、福島県内の大学・工業高等専門学校4ヶ所において、今注目が集まるベンチャー企業のアントレプレナー達による講演と、参加者達によるキャリアディスカッションを実施した。

今ある仕事からキャリアを選ぶのではなく、「課題感や、興味があること」から新しいキャリア（生き方）を作り出した先輩アントレプレナーの熱意あふれるお話に参加者達は刺激を受けた。また、その後は、自分達の課題感や興味をテーマに参加者同士でのディスカッションを実施。計102名の学生が参加し、自分の関心ごとやキャリア観の広げ方について考える機会となった。

日程	場所	所属	講師
11/5 (月)	会津大学	株式会社リバネス 代表取締役社長COO	高橋 修一郎
11/6 (火)	日本大学	株式会社チャレナジー チーフエンジニア	渡邊 汗
11/8 (木)	福島工業高等専門学校	ハイラブル株式会社 代表取締役	水本 武志
11/9 (金)	福島大学	アカデミスト株式会社 代表取締役CEO	柴藤 亮介



高橋 修一郎



渡邊 汗



水本 武志



柴藤 亮介



セミナーの様子

参加者の感想

ただ経験談を聞くだけでなく、そこから何かすることによって自分の力になるという基本を改めて認識できてよかった

刺激をもらったのはもちろんのこと自分自身の将来に対してより深く掘り下げる必要があると改めて考えさせられる良い機会だった

自分の意見を口に出すことで、それに対する意見がもらえ、その意見を考慮して自分の考えを改善することが出来ることがわかった



ビジネスアイデアを磨いて、シリコンバレーを目指せ！ キャリアディスカバリーワークショップ

2018年12月、セミナー参加者の中からシリコンバレー視察研修ツアーに参加を希望する18名が郡山に集まり、ビジネスアイデアのブラッシュアップワークショップを実施した。自らの興味を元に練ったプランを発表。参加者達は時間内に自分の熱意を相手に伝えることの難しさや、ディスカッションによって考えが整理されていくことを実感した。

イベント概要	
日時	2018年12月1日 13:30～16:30
場所	郡山市中央公民館金透分室会議室
参加者	18名



ディスカッションの様子

参加者の感想

周りの人の意見に賛成しつつアドバイスをするグループワークの時間が普段無いので、とても楽しかったし、こういうイベントにもっと積極的に参加したい

ディスカッションがあったことにより、自分の考え方に幅と深みが生まれて発見につながった

自分のやりたいことや興味のあることを、きっかけにしてキャリアを作っていくことの大切さや必要性を、大いに感じた

自分の意見を簡潔に伝えることの大変さを知り、理解して質問するという行動もなかなかしないので、貴重な体験だった

発表している時間、熱く語っている時間は、自分にとってとても快いもので、その発表内容が聴衆にとっての関心や別のアイデアへのヒントを引き出せれば、もっと嬉しいと思う

自分の中の価値観や世界観が変わった



いざ、挑戦の場へ シリコンバレー視察研修

2019年2月、事前研修を終え、選考を通過した9名の学生がシリコンバレーに降り立った。新しい「仕事」を次々と創ってきた街に、自分の興味・関心から構想したビジネスプランを抱えて挑んでいく。この街には、何故世界中から人が集まり続けるのか？急成長を遂げる現地のベンチャー企業を訪問し、彼らを助けるエコシステムを体験することで、イノベーションの聖地の秘密に迫った。

研修スケジュール

2019年2月17日

成田空港出発 / サンフランシスコ空港到着

市内文化視察

以下の訪問先では、事業紹介を受けた後、参加者によるビジネスプレゼンを実施。様々な視点からのフィードバックを得た。

2月18日：シリコンバレーのベンチャーを知る

急成長する現地バイオテックベンチャー企業

MEKONOS Inc.

Two Pore Guys, Inc.

2月19日：シリコンバレーのエコシステムを知る

世界のスタンダードをつくるインキュベーター / アクセラレーター

Singularity University

Plug and Play Tech Center

2月20日：シリコンバレーで成長する大企業と現地の大学

シリコンバレーで新規事業開発に挑む大企業と世界に名だたる名門大学

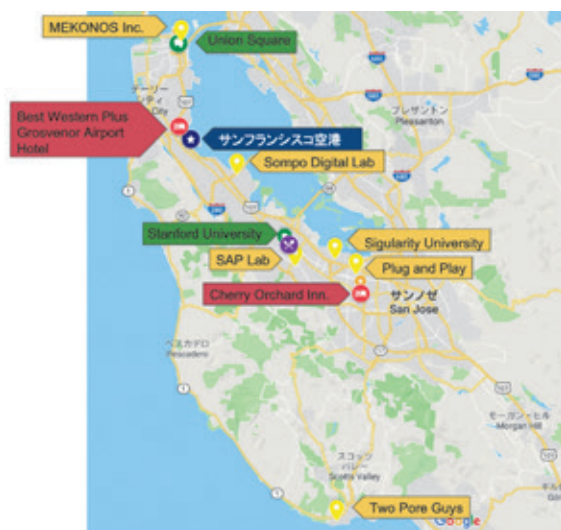
SAP Labs Silicon Valley

Stanford University

SOMPO Digital Lab Silicon Valley

2月21日

サンフランシスコ空港出発 / 成田空港到着 (2月22日)



振り返り会でアイデアをブラッシュアップする様子



参加者の感想

アントレプレナーシップとは、「誰かがやってくれるのではなく、不思議だ、やりたいと思ったら自分から動き出すこと、周りを巻き込むこと」。研修中は、いつ自分のプレゼンや考えを送っても、スタッフが必ず返してくれる安心感がありました！

研修・ツアー中には、「やりたいな、では一生やらない」、「君に足りないものはリスクを怖がらずやりたいことを今やる行動力だ」と、面と向かって言ってくれる人がいて、いい意味でグサリと刺せました。今、気づけてよかったです

研修参加者の声

失敗することは、悪いことじゃない

百戦錬磨の起業家の前で、自分のアイデアを披露しなければならない。怖い、震える、カッコ悪いと見せたくない。でも、繰り返す度にわかってきた。重要なのは失敗を恐れず、挑戦を続けることだったんだ。

福島大学
経済経営学類 2年生
藤田 修吾さん



そもそも研修に参加したきっかけは、世界の最先端を走り続けるシリコンバレーのビジネスの現場を肌で感じてみたいと思ったからでした。言葉も文化も何もかも違う国へ行くことで環境を変え、良い意味で自分の価値観、感覚が壊されることを期待し、エントリーをしました。

研修中は毎日、訪問先で自分のアイデアをプレゼンテーションする機会がありました。発表の度に多くのフィードバックを貰えましたが、それを次の発表に活かすために自分の考えをアップデートし続けることは簡単ではありません。毎回同じことを話した方が、内容としてはこなれていきます。「でも、それでは失敗を避けているだけで、シリコンバレーに来た意味がない」。そんな思いから、新たに思いついた面白いアイデアの切れ端を、不格好でもどんどん共有するという小さな挑戦を積み重ね続けました。周りから見たら、たどたどしいプレゼンテーションもあったかもしれませんが、「思い切ってやってみれば意外となんとかなるものだ」と大きな実感を手に入れました。

このプログラムを経て、アントレプレナーシップとは「失敗を避けることではなく、小さくとも挑戦すること」だと感じました。この想いを胸に、今後も挑戦を繰り返していきます。



プレゼンの後フィードバックを受ける藤田さん





アカデミア・コンソーシアムふくしま 理事長
(福島大学 学長)
中井 勝己さん

福島県内には19の大学等の高等教育機関があり、それらが団結し本県の諸課題に向き合うために、県内の大学等と、福島県や商工会議所連合会などの官界・経済界の各団体を構成員として、平成22年3月にアカデミア・コンソーシアムふくしま（以下、ACF）が発足しました。いわゆる大規模な総合大学がない本県でも、異なる大学等の中で互いの持ち味を生かしながら、これまで人材育成や地域貢献など、数多く幅広い事業に取り組んで参りました。

さて、福島県は東北第一位の工業生産出荷額を誇り、全国有数の産業集積地で、大きな工場や工業団地がたくさんあります。しかし一方で、あらゆる産業の始祖となるベンチャー企業については、決して多くなく、

とりわけ大学発ベンチャーに限れば、多くても年間で2件程度が創業するという状況が続いています。

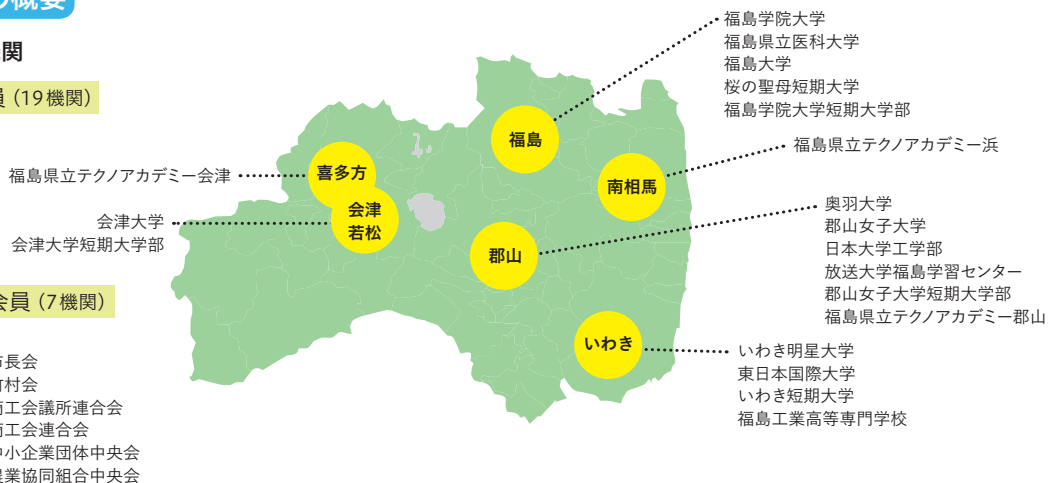
そこで、ACFの各機関が連携し、また創業支援に関するノウハウなどを提供いただくために株式会社リパネスとも協働しながら始まったのが、この福島県の事業「リーディング起業家創出事業」です。この事業では、ACFの構成大学等が持つ研究シーズを社会実装することと、起業家精神を持った人材を養成することに挑戦します。

ACFは、地域の企業をはじめ、多くの皆様とのパートナーシップにより、新たな時代の産業集積県の福島県を目指し、全力を尽くします。

ACFの概要

会員機関

正会員（19機関）



特別会員（7機関）

- 福島県
- 福島県市長会
- 福島県町村会
- 福島県商工会議所連合会
- 福島県商工会連合会
- 福島県中小企業団体中央会
- 福島県農業協同組合中央会

主要事業

- 森林自己学習支援事業（平成28年4月～）
 - リーディング起業家創出事業（平成30年5月～）
 - 再エネ・地域フロンティア人材養成事業（平成30年5月～）
- このほかにも随時、学生・教員と自治体・企業等の橋渡しを行っています。

お問合せ先

アカデミア・コンソーシアムふくしま事務局
〒960-1296 福島市金谷川1番地 福島大学地域連携課内
電話:(024)548-5295 Fax:(024)548-5296
E-mail:acf@adb.fukushima-u.ac.jp
URL:http://acfukushima.net/

科学技術の発展と地球貢献を実現する 株式会社リバネス



株式会社リバネスは、「科学技術の発展と地球貢献を実現する」という企業理念のもと、2002年に15名の理工系大学院生が立ち上げました。設立時のQuestion（社会課題）は大きく3つ。理科と社会のつながりが見えない小学生・中学生が増加していたこと（理科離れ）、安定した職に就けず「ポスドク」を続ける博士人材が年々増加していたこと（ポスドク問題）、そして自らの研究成果や技術をもってベンチャーを志す人材が少ないこと（アントレプレナーの不足）でした。それらの課題に対して、研究者だからこそその視点を武器に挑んできました。

私たちが、設立以来最も大切にしていることは、「子どもから専門家まで、様々な対象に合わせてわかりやすくサイエンスとテクノロジーを伝え、その可能性を引き出す」ことです。世界中の企業、大学、研究機関などから最先端の知識や技術を集め、それらを組み合わせる知識製造業を通して新たな知を生み出し、それらをわかりやすく伝えることで、社会に貢献します。

以下に、設立時のQuestionを解決するべく取り組む4つのプロジェクトをご紹介します。



産業界と教育現場をつなぎ、次世代育成を行う活動です。創業以来、リバネスの理念に賛同する多くの企業と共に100を超える教育プログラムの開発を行ってきました。さらに、アジア最大級の中高生のための学会「サイエンスキャッスル」や、小学生に本物のサイエンスとテクノロジーを体験してもらう「理科の王国」などの企画・運営を通して、次世代の研究者の育成に取り組んでいます。



産業界とアカデミアが連携し、研究的思考をもった人材育成の仕組みを生み出す活動です。学生やポスドクが専門領域にとらわれず、異分野の企業やベンチャーと出会うことで新しい研究者としての生き方の発見を実現する「キャリアディスカバリーフォーラム」や、研究で培った考え方を活かした就職・転職を支援する「研究キャリアの相談所」の企画・運営を通して、アカデミアと企業の中で人が共に成長する仕組みを作ります。



産業界とアカデミアをつなぎ、研究の活性化、若手研究者の成長を応援する活動です。企業がスポンサーする若手研究者向けの「リバネス研究費」や、アカデミア・ベンチャー企業・大企業・工場など、立場や分野を超えて議論する「超異分野学会」の企画・運営を通して、産業界とアカデミアのアイデアの掛け合わせによるイノベーションの創出を目指しています。これにより、産学双方の研究の活性化と最大化を図ります。



アカデミアや企業が生み出す優れたシーズを見出し、事業化に向けた育成に取り組む、事業化支援活動です。様々な研究開発が進むなか、それらが事業化され産業に活かされるためには多くの課題が存在します。この状況を打破するべく、テクノロジーベンチャーの発掘・育成プログラムであるテックプランターや、飛躍するベンチャー企業のための表彰制度リアルテックベンチャー・オブ・ザ・イヤーを通して、人類を一步前に進めるための取り組みを推進していきます。



福島県から世界を変える！

研究開発型ベンチャーの創出事業

エントリー募集中！！



FUKUSHIMA
TECH PLANTER.

応募締切	2019年6月17日(月)
最終選考会	2019年7月27日(土) 13:00 - 18:00 (懇親会 18:00 - 19:30)
場所	郡山ビューホテルアネックス4階 (〒963 - 8004 福島県郡山市中町10 - 10)
表彰	最優秀賞、企業賞(複数件)

参加条件	<ul style="list-style-type: none"> ① 県内大学・工業高等専門学校等研究機関発の科学技術をベースとしており、創業に興味・関心があるベンチャー、チーム、個人であること ② 年齢・国籍・所属不問、学生も参加可。 ③ 世界を変えうる Question と Passion を持っていることが望ましい。 <p>※詳細は P12,13 をご覧ください。</p>
------	---

エントリーは
こちら



<https://techplanter.com/entry/>

[主催]

株式会社リバネス

福島テックプランターでは、福島県から世界を変える事業を生み出すべく、年間を通して活動を展開しております。本取り組みが県内の新たなエコシステムとして定着・発展していくためには、技術のタネをともに育て、それが花開き、実をつけるまで、伴走いただける県内企業の皆様のご参画が不可欠です。パートナーシップについての詳細は下記までお問い合わせください。

[問合せ先]

株式会社リバネス

TEL : 03-5227-4198 (人材開発事業部 岡崎、地域開発事業部 石澤)